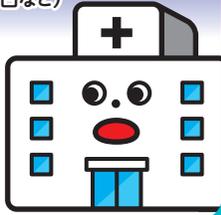
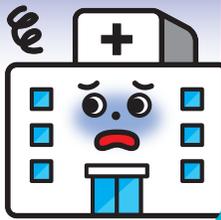


救急医療機関 適正な受診のお願い

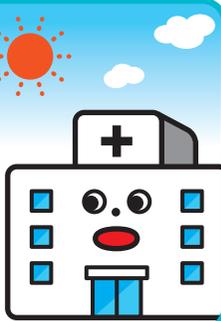
急病やけがで緊急処置が
必要な患者さんのために
夜間や休日(土曜日午後・日曜・祝日など)
にまたは24時間体制で診療を行う
救急医療機関が
開設されています。



とるが、明らかに緊急性がない人の
受診が増加し、救急医療現場は
混乱を来しています。



平日の日中から
体調がおかしいと感じたら、
通常の診療時間帯に
身近なかかりつけ医などを
受診してください。



救急医療は、
便利な時間外診療ではありません。
コンビニ感覚での受診はおやめください。

北海道救急医療・ 広域災害情報システム

身近でかかりつけ医を
探すときに



休日・夜間当番医を
調べるときに



けがや急病などの緊急時に、受診可能な「休日・夜間当番医」
などの医療機関情報を、24時間体制で提供しています。イン
ターネットから身近な医療機関を検索して、通常診療時間を調
べたり、かかりつけ医を見つけるなど、日ごろの適正な受診行動
にも役立てましょう。

※医療相談は行っていません
※広域災害などの際に、医療機関や行政などの限定された関係者間で災害対応
時に必要な情報を収集し、全国に発信するなどのシステムも備えています

インターネット <http://www.qq.pref.hokkaido.jp>

フリーダイヤル 0120-20-8699

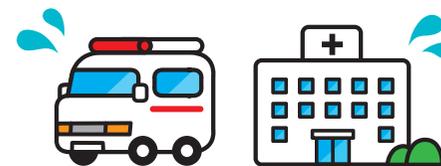
携帯電話 011-221-8699



救急医療機関の 適正なご利用 について



みなさまのご理解と
ご協力をお願いします



【発行】一般社団法人 北海道医師会
札幌市中央区大通西6丁目 TEL.011-231-1432
2020年7月 第4版第1刷発行

救急医療機関には、役割分担があります。症状・緊急度に応じて、適正な受診を。

[救急医療体制の流れ]



初期救急医療機関

- 休日当番医
- 休日・夜間急病センター

対象 / 外来診療で対応可能な軽症患者

二次救急医療機関

- 輪番制参加病院 など

対象 / 手術や入院が必要な中等症～重症患者

三次救急医療機関

- 救命救急センター
- 高度救命救急センター

対象 / 生命にかかわる重篤患者

※初期救急医療機関を受診し、手術や入院が必要と診断された場合は、二次・三次救急医療機関と連携が図られる体制になっています。

症状・緊急度 **軽症** 比較的軽症と思われるときは、初期救急医療機関へ

救急医療機関は「初期」「二次」「三次」の3段階に区分され、患者さんの症状や緊急度に応じて役割を分担しています。発熱や腹痛などの比較的軽い症状のときは、初期救急の「休日当番医」「休日・夜間急病センター」を受診しましょう。

! 二次・三次救急医療機関をウォークイン（徒歩・マイカーなど）で受診する軽症者が増加し、本来の役割である重症者の対応に支障が出ています。

休日当番医 休日・夜間急病センター の診療内容

- 応急処置が中心です (専門的な治療を行う体制にはなっていません)
- 小児科などの専門医がない場合もあります (通常診療の方が、医療スタッフなどの診療体制が整っています)
- 詳しい検査はできません (そのため診断が確定しないこともあります)
- 処方されるお薬は、原則平日の通常診療が始まるまでの日数分です (通常は1日分)

※受診後は、翌日の日中か、なるべく早い時期に、かかりつけ医などをあらためて受診する必要があります。

症状・緊急度 **?** 子どもが急病、受診に迷ったら「北海道小児救急電話相談」へ

夜間にお子さんが急病になったり、事故にあったときに、直ちに医療機関にかかる必要があるか、家庭でどのように対処すればよいか、電話で看護師の助言を受けます。より専門的な知識を要する場合は、小児科医が相談と助言に応じます。

北海道小児救急電話相談

- 受付時間 毎日午後7時～翌朝8時
- 電話番号 011-232-1599 いーこきゅうきゅう
- 短縮ダイヤル #8000 ※家庭のプッシュ回線、携帯電話から
- 注意 ※電話相談は一般的な対処に関する助言を行うもので、診断・治療はできません
※育児相談はご遠慮ください
※明らかに重症と分かるときは、直ちに119番通報を

症状・緊急度 **重症** こんな症状のときは、迷わず119番→救急医療機関へ

- 意識がない
- 半身のまひ
- ろれつが回らない
- 大やけど
- 大出血
- 呼吸不全
- 激しい頭痛、胸痛、腹痛

